

シリーズ「がんばるボランティア団体」 第3回

道草ぶんこう



命はぐくみ、心たがやす！ 道草ぶんこう

田茂沢分校がなくなる。時代の流れとはいえ、一時代が終わったような何とも言えない空気が地区に漂っていたのでした。その時、町内のHさんが、退職後に自分のアトリエとして借りたい。私たちの心の中の精神的支柱が残ったのでした。

「道草ぶんこう」の命名は、地区の人で長い人生には、道草をして自らを省みることも必要である。こんな意味があるのです。廃校（平成13年4月1日）になるとすぐ様々なことで活用されています。

平成20年6月に運営委員会を田茂沢地区と蒲沢地区の人々そして外部者の計20人で組織をしました。校長先生にあたる運営委員長に遠藤長三郎さん、教頭先生役の副運営委員長に佐藤定さんがぶんこうを牽引してくれています。「人と人のつながる地域、心の造形運動」を目標に、地区の再生を目指し活動しています。



社会で極度の競争を強いられてきた私たちは、自らを、家庭、住んでいる地区、社会を客観的に見ることができなくなってきています。「地区の宝物を見つけよう！」「山間地の文化を考えよう！」このスローガンで、山形大学フィールドワークの受け入れ、地区の自然・農業体験や地区の総合文化祭さわやか祭り、なし団子祭りなど多様な視点で、私たちが当たり前すぎて気にとめないことを、新鮮と驚きと感動の目で私たちに語りかけてくれるのです。先入観の持たない輝いた瞳で見ることの大切さを教えられたような思いがするのです。

この道草ぶんこうのおかげで、活動としては老人クラブは定例のグラウンド・ゴルフの日を定めて集い、子供たちも創作遊び教室にこれも定例で参加し、また、県内外からも道草ぶんこうを訪ねてきてくれます。



私たちの地区にはとても素晴らしいものが残っていることに気がついたのです。絶滅危惧種に指定されているきれいな清水に生息している「ホトケドジョウ」、また、清流にしかない「ハナカジカ」、源氏ほたと平家ほたるが乱舞する光景に歓声が上がったのです。（道草ぶんこうのブログを参照）

地区の先人たちが築いて残してくれた地区の宝！決して失わないで、もっと磨いて、親しんで次の世代に残していかなければならない。こんなことを道草ぶんこうで話をしています。

上右記と左記は田茂沢検定でのスナップです。